

障がい者センター/カルチャーセンター訪問

Center for handicap / Daghøjskolen

P.I.C Leder Ms. Tina Boel Reugboe

レポート:多田 聡

★障がい者センターの概要

ロスキレ市の障がい者センターは、600名の利用者と350名のスタッフがいます。いくつかの施設がありますが、この施設には150名の利用者がいます。利用者は18才以上の方で、リハビリテーションを目的にしています。以下のような方々が利用しています。

- ①少しの援助で良い方
- ②2年間の援助で在宅ケアにできる方
- ③在宅でケアを受けている方
- ④24時間ケアの方
- ⑤ホスピス的な住宅に住む方
- ⑥14日までのショートステイの方

また、重度の方はデイセンターで、軽度の方は授産施設で活動しています。

仕事を受託している人もいて、例えばロスキレ図書館のカフェや「ボーロップ」で森の仕事などをしています。自閉症の方にとっては広い場所の方が過ごしやすいということもあります。

- ・森林ヘルパー
- ・学校の子供たちが来る場合の対応
- ・ニワトリや野菜の世話
- ・ハチミツ作りは賞を受けるくらいの人気である

★スタッフの教育

スタッフには保健師が多くいますが、他にも社会福祉士（ヘルパー）、看護師、作業療法士、理学療法士など色々な職業の人が関わっています。スタッフが知識や方針を共有していることは大切で、このセンターでは、脳障がいについての知識は重要なので、60か

ら70名のスタッフがその研修を受けています。

★現状

現在、障がい者への対応の必要性は高まっていて2018年には50戸の住宅が足りなくなるとされています。現在、若い自閉症の人のために9室作ることになっています。

障がいを持っている方の中には医者にかからない人がいるため、保険庁のプロジェクトとして、健康チェックを行っています。70%の利用者は健康上の問題があることが分っても通院していない状況です。

また、研究室も作りつつあり、アプリケーションの開発などを行っています。例えば視覚障がいや脳障がいの人が店で買い物をする際に、（スマートホンなどをかざすと）その品物の内容が分かるというようなアプリケーションの開発が行われています。

★教育リーダーの話

デンマークではすべての発達障がいの方が支援を受けなければならないことになっていますので、青年たちについても特別支援を受けることができなければなりません。ここでは頭を使うだけではない、手や身体を使うようにしています。

ここではSTU-LINEと呼ばれるいくつかの生産・作業ラインがあります。その内の一つについて見学しました。

リサイクルラインでは、市のリサイクル場（ゴミステーション）から、市民が持ち込む色々なものから使えそうなものを持ち帰り、

学校で修理して売っています。これは始まったばかりですが、家具や洋服を作っています。

★作業場所の見学

作業場所（リサイクルライン）の見学に行きました。パレット（木製の荷物運搬台）を解体して棚やワインラック、植木鉢などを製作し、販売しています。その他、飼料や小物の梱包作業もしていました。

★絵を描く部屋

絵を描いている方の部屋も見学しました。この日は2名がおり、その内の1名、マリーさんは両手が使えないため、頭にヘルメットのようなものをかぶり、コミュニケーションボード（BIIZ という名称です）を指し示しながら介助の方と一緒に絵を描いていました。ここに来て15年間絵を書き続けているとのこと。

★デイスクール

デイスクールは18才以上の成人のための教育を行っている場です。生徒さん達がここでの活動紹介をしてくれました。その日は12名の方が通って来ていました。先生は2人。ヘルパーとして大学の学生が来ており、この日は3人がいました。

時間割は先生と生徒で半年ごとに決めるそうです。以下のような科目があります。

Learning
Fellowship
Personal Development
Trip(out of home)
studytrips
communication
Educational teaching
Theater/music
Health and Activity

学習旅行でベルリンやスウェーデンへ行ったり、Over night trip to a shelter といって森の中の簡単なシェルター（小屋）で一晩泊まってくるといった活動もしているそうです。

この学校では、民主主義を学ぶ、そして誰もが社会に貢献できるということを学ぶということがテーマになっているそうです。

★感想

このセンターには、もっと色々な利用者の方やスタッフの方がいて、支援の展開も色々あるようでしたので、他の場所も見てみたいなと思いました。自閉症の方などが、森の仕事をしている様子などはやはり現場を見てみたいと思いました。

利用者の方の様子やスタッフの方々の表情や接し方を見ただけで、何か良いことがありそうな幸せ感が伝わってきました。

